——J3 号敷石住居——

住居全景（西から）

Ｊ３号敷石住居は、南西部が古代の住居で壊されていますが、比較的残りの良い住居です。本遺跡からは、他に２基の敷石住居が見つかっていますが、いずれも張り出し部（入り口部）が南西に位置していますので、本住居も欠損している南西部に張り出し部があったものと見られます。中央部分からは、石で囲まれた炉址が検出されています。床面からは、称名寺式土器を中心に、黒曜石で作った石鏃２点・打製石斧１点などが出土しています。また、敷石に転用された多孔石が１点見つかっています。本住居の年代は、出土した土器から見て、縄文時代後期に位置付けられます。

礫床（南から）

炉址部（東から）

ミニチュア磨製石斧出土状態（南から）

本遺跡からは、ミニチュアの磨製石斧が3点見つかっています。3点とも遺構外の異なる地点から見つかっています。

財団法人
かながわ考古学財団
〒232-0033
神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
TEL：045-252-8689
ホームページ：http://www.kaf.or.jp/

にしとみおか　むこうばた
西富岡・向畑（伊勢原市No.160）遺跡

見学会資料

財団法人　かながわ考古学財団

----2008年8月10日----

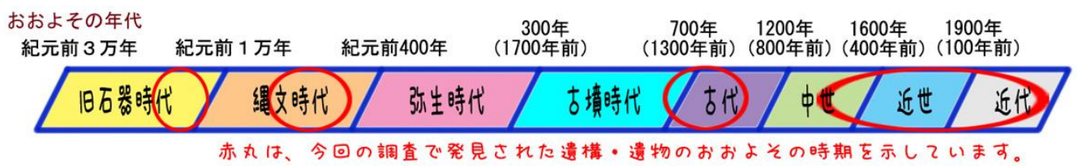
当財団では、中日本高速道路株式会社が計画する第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、平成 19 年４月より埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約２㎞にわたって広がる遺物散布地として、多くの時代の遺跡が残されていることが知られています。

現在行っている発掘調査は、遺跡の中でも緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として行っています。

本遺跡からは、多数の遺構・遺物が見つかっています。今日は、その中でも縄文時代の遺構を中心に紹介したいと思います。

４区の古墳時代末～平安時代遺構全景（西から撮影）



これまでの主な発見遺構と出土遺物

――発見遺構――

中・近世：地下式坑、道状遺構、溝状遺構、土坑 など

古代（奈良・平安時代）：竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物 など

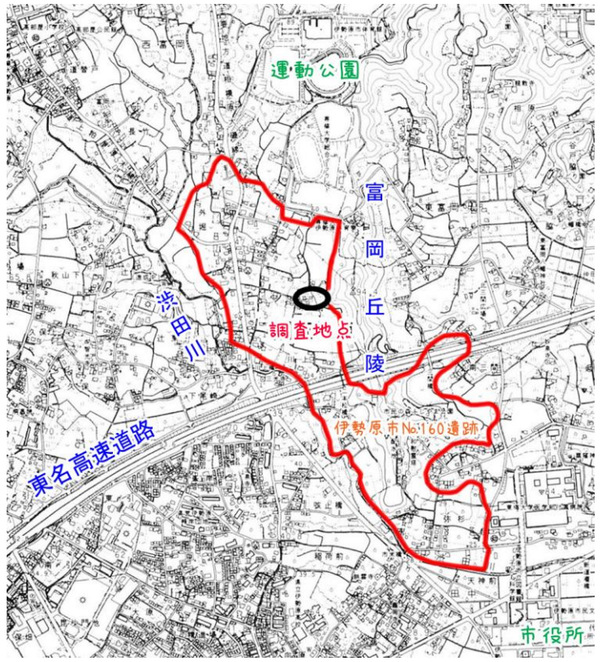
縄文時代：敷石住居、集石、埋甕 など

――出土遺物――

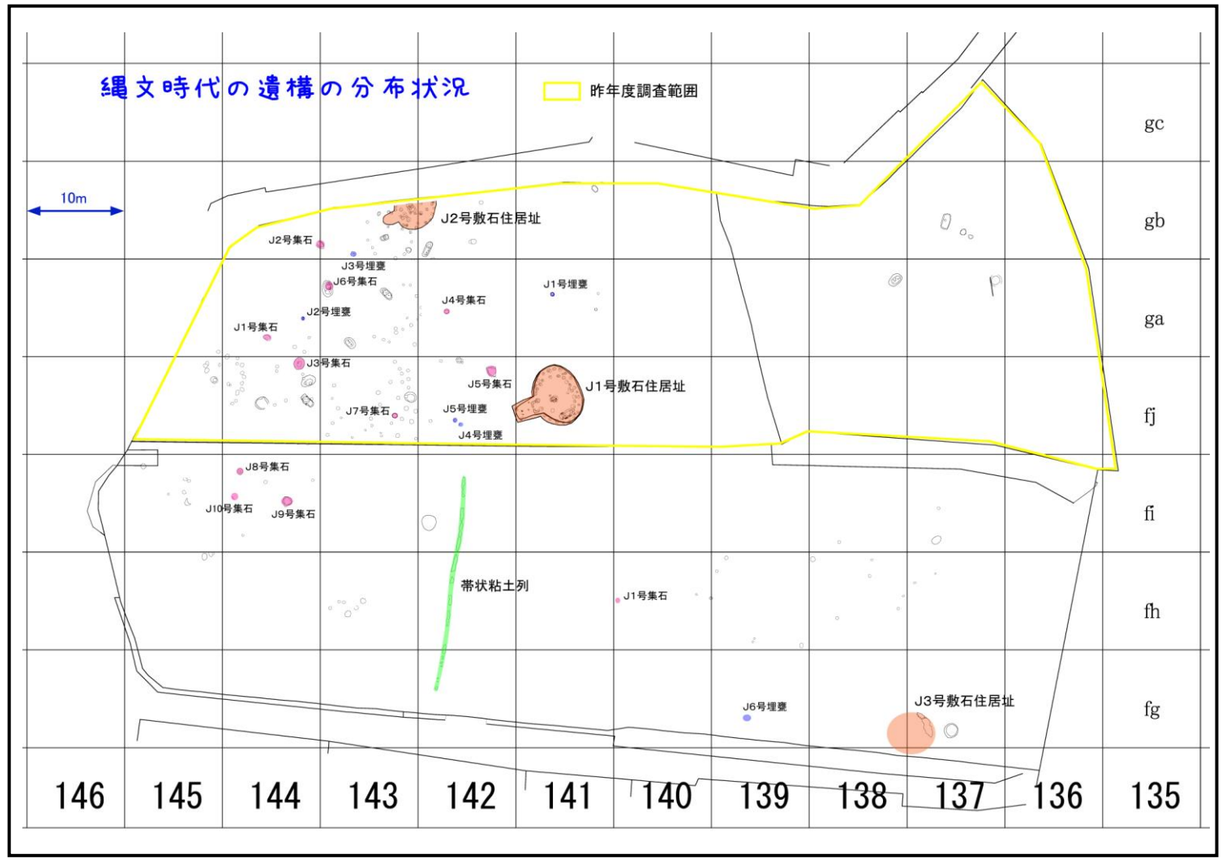
中・近世：陶磁器・かわらけ

古代（奈良・平安時代）：土師器、須恵器、灰釉陶器、銅製品（銙帯金具・・・巡方・丸鞆）、金銅製品（飾り金具）、鉄製品（刀子）、石製品（砥石）、土製品（土錘）

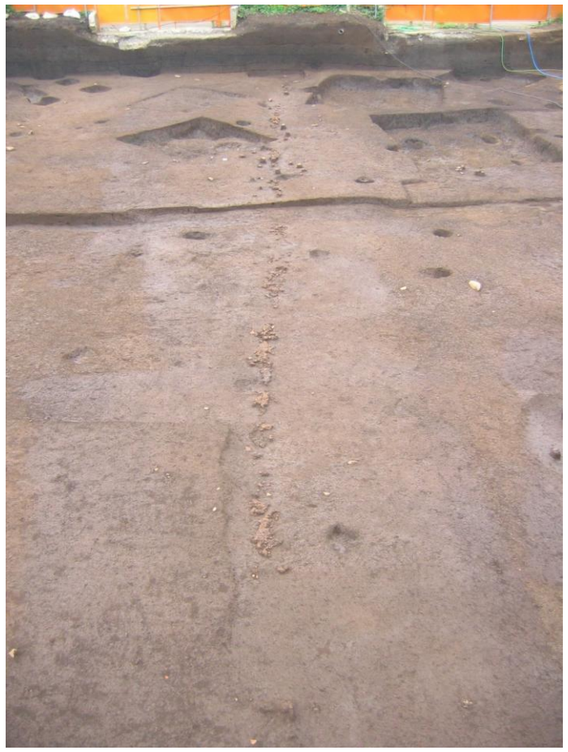
縄文時代：縄文土器、打製石斧、磨製石斧、管玉



遺跡の位置



現在調査中の地点の遺構配置図



帯状粘土列全景1（北から）

帯状粘土列全景2（北から）

帯状粘土列近景（東から）

帯状粘土列接写（東から）

本遺跡のほぼ中央から南北に延びた帯状粘土列が検出されています。この粘土列は幅 20～30 ㎝・厚さ 1.5～3 ㎝を測り、所々粘土列がとぎれる所もありますが、南北に約 20mわたって延びています。この粘土列の成分を上杉先生（都留文科大学名誉教授）に調べてもらったところ、スコリア・斜長石・土を粘土でくるんだものであることが分かりました。粘土列の上場を測ると、標高 46.5～47.0mの間に収まります。北から南にむかってやや低くなっていきます。粘土列をまとまりごとに見てみると、ほぼ平坦に作られていることが分かります。

帯状粘土列が何の目的で作られたのかは、今のところ分かっておりません。人為的に平坦に並べられていることから、何らかの境界ではないかとも考えられます。